

ZENRAKUREN

MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報

第43回 全国酪農青年女性酪農発表大会 ②

嫁・婿が語る酪農の魅力／寺島みち子さん

新コーナー 酪農家さんからの投稿コーナー

酪政連活動報告



酪農トピックス／野口弘子氏 全国酪農青年女性酪農発表大会 最優秀賞受賞祝賀会 盛大に開催される（東京）ほか

日本酪農見て歩紀（愛知県西尾市 杉崎亮太牧場）



9

2014 September No.588



全国酪農業協同組合連合会



表彰式の様子

第43回 全国酪農青年女性 酪農発表大会 ②

意見・体験発表の部



最優秀賞に 野口弘子さん(関東甲信越会議)が輝く!

2011年の東日本大震災と東電原発事故によって中止を余儀なくされた酪農発表大会が、震災・原発事故から3年の月日を経て、東北の地で実施できたことは大きな喜びです。震災と原発事故によって酪農も大きな痛手を被ったわけで、例えば第13回大会の意見・体験発表の部で最優秀賞を獲得された菅野浪男さんの牧場も閉鎖に追い込まれています。福島では依然として15万人以上の方が避難生活を強いられているように、まだその被害が続いていることを

意見・体験発表の部 審査講評

日本大学生物資源科学部教授
小林 信一 審査委員長



忘れてはならないと思います。その一方で、今回の発表では、同じく閉鎖に追い込まれたみちのくグリーン牧場などで研修を受けた若い方たちが、各地で酪農家として活躍していることも、知ることができました。酪農家の人と人とのつながり、絆が希望であることを実感できました。福島のミネロファームや復興牧場など、酪農を再興しようとする東北の酪農の取組を酪農界あげて応援したいと心から思う次第です。



先月号に続き、今月号では7月17日(木)18日(金)宮城県仙台市「ホテルメトロポリタン仙台」にて開催された第43回全国酪農青年女性酪農発表大会 酪農意見・体験発表の部を、審査講評を中心にご紹介いたします。

夢の実現！ そして創造の輪へ

東北酪農青年婦人会議

安達 麻美さん



東京都の非農家出身の安達さんは、動物が好きだったことから東京の瑞穂農芸高校畜産学科に入学し、そこで牛のメリーに一目ぼれ。「大好きな人と大好きな牛の世話ができたら幸せだろうな」と思うように。北海道の八紘学園に体験入学した際に、案内してくれた学生に2度目の一目ぼれ。そして運命の再開を栃木の全共で果たし、とんとん拍子で結婚、宮城県の酪農家のお嫁さんとなり、夢をかなえました。しかし、義父のケガによる急きよの経営移譲や、東日本大震災時の停電や断水、生乳廃棄、放射能汚染による自給飼料の使用制限などの試練にも直面しました。こうした試練も酪農の仲間たちに助けられ、乗り越え、1人の酪農家として受け入れられるまでになりました。念願だったエクセレン

価値を創る

北海道酪農青年女性会議

雨田 章子さん



山形の非農家出身で、仙台の高校卒業後帯広畜産大学に進学した牛乳が大好きな雨田さんは、大学のサークル「うしぶ」での活動や、アニマルウェルフェアに配慮して生産された牛乳に関する卒論、在

ト90点の牛も育て、また、酪農女性の交流を図る「酪農ガールズ」に参加し、さらに大崎酪農ガールズを立ち上げ、酪農の勉強や料理教室など活発な活動を行っています。2人の息子さんも、牛好きに育ち、リードマンデビューも果たしました。85点以上の長命連産の牛に囲まれて、コーヒーを飲むのが夢という、幸せな安達さんです。今後は酪農の素晴らしさを、農業高校の後輩たちに伝えて、第二、第三の安達さんが現れる活動にも、ぜひ取り組んでいただきたいです。

学中や卒業後の放牧酪農やジャージー牛、こだわり牛乳を生産する牧場での実習などを通じて、自分の中でやりたい酪農の姿を明確にしていたようです。株式会社美瑛ファームに就職し、美瑛放牧酪農場の立ち上げに参画し、ジャージー種の主体の昼夜放牧の酪農場で、低温殺菌乳を生産するという、これまで学び、求めてきた酪農を行える喜びがジワリと伝わってくる発表でした。現在は加工プラント責任者として、衛生的で美味しいソフトクリームやバターの製造に打ち込んでいますが、北海道に来て10年が過ぎ、多くの人たちに支えられて、今があることに感謝し、美瑛町全体が活性化するように協力していきたいと考えている雨田さんです。



小さいころから「父のような立派な酪農家になりたい」と考え、農業高校に進学したが、そこで獣医にあこがれ、「酪農と獣医師を両立する」ことが夢となった大渡さんは、必死に勉強してその夢を実現されました。今年経営移譲も行い経営主となった大渡さんは、自分の経営の改善を図る一方、開業獣医としても働きつつ、幼稚園、小学校のPTAの会長として食農教

酪農と獣医師の両立と 酪農教育交流を目指して — 酪農の大切さを伝えたい —

九州酪農青年女性会議

大渡 康弘さん



法人経営の従業員の立場での意見・体験発表は、ユニークなものでしたが、非農家出身者が酪農に係る方途として徐々に重要になってきていることから、意義ある発表でした。今後、美瑛町の活性化に具体的にとのようにかかわっていかれるのか、楽しみに注目していきたいと思います。

育にも率先して関わり、さらに酪農青年部の部長として若手後継者の指導、乳牛共進会のリードマン、はてはイベントで「食育戦士南さつマン」を演じるなど、目を見張るマルチな活躍をされています。そのバイタリティには、会場のみなさんも、度肝を抜かれたことと思います。今の酪農情勢の打開のためにも、これからも「元気いっぱい」地域をひっぱっていきたいと熱く語る大渡さんに拍手喝采するとともに、母校の教師として、若干心配にもなります。老婆心ながら、「獣医師である奥さんとの役割分担なども考えられたら」と思っています。

夫と共に…仲間と共に… 夢に向かって…走っています♪

関東甲信越酪農青年女性会議

野口 弘子さん



「優しい夫がいて、そして子供が生まれ、それだけで満足」だった野口さんは、結婚して10年間一

度も家族旅行に行っていないことに気づき、酪農青年部の同世代の4家族に働きかけ、「ヘルパー互助会」を立ち上げました。この互助会は「休み」だけではなく、仲間といっしょに経営改善を考える契機も与えてくれ、さらに連帯感を深めることにもなりました。酪農教育ファーム認証制度がスタートするや、すぐに認証を受けて、中学生を対象にした体験学習にも取り組むバイタリティは、現在道の駅思川でのジェラートの製造・販売に活かされています。アイス工房「カウベル」を理解ある夫と頼もしいヘルパー互助会メンバーの仲間に支えられて8年、経営として成り立つまでにしました。「美味しく、楽しく、元氣の出るジェラート」を心掛ける野口さんは、地産地消にこだわり、地元農産物を活かしたジェラートを製造しています。特に、生産量日本一を誇る小山のハトムギを使った香ばしいはとむぎジェラートは絶品で、ミルクツアーニッポンの人気投票でも上位にランクインされるほど。農業高校でのジェラー

“つながっていく”大切さ

西日本酪農青年女性会議

山延 伊久江さん



トの出前授業や道の駅での体験教室などの活動も行っている野口さんは、ご主人、後継者との役割分担をきちんとやりながら、生涯現役、一生青春の最中にあります。

酪農家の三姉妹の長女として生まれた山延さんは、「両親の仕事の手伝いをするのが大好き」で、酪農の勉強をするために県立農業技術大学校に進学。卒業後はまっすぐ就農し、東広島市では第一号となる家族経営協定も結びました。小さいころから研修生がいる生活が当たり前だった環境に育ったことから、自然と小中学生の体験学習にも参画し、「伝えることの大切さ」を実践しています。また、牛乳のPR活動で、親子でのトークショーや知事訪問、酪農団体の役員としての交流会開催、あ

これから酪農を継ぐ人たちへ

中部酪農青年女性会議

宮下 優子さん



るいは女性限定の「ときめき隊」での活動など、家族とのつながり、地域とのつながり、生産者と消費者とのつながり、仲間とのつながりを大切に、活動を続ける山延さんは、今日はピンクの服は着ていませんが、「綺麗な花」であると思いました。

酪農家三姉妹の次女として生まれた宮下さんは、「うちに帰るといつも父と母がいたこと」、「両親がやりがいをもって楽しそうに仕事をしている姿を見て」、酪農を継ごうと考え、酪農学園大学に進学。そこで現在のご主人とも出会い、9年間の交際を経て、結婚され一緒に実家の酪農を継いでいます。その間に、大学卒業後、福島やオランダの牧場でのそれぞれ1年間の実習で、乳製品加工などを

研修。その後、就農、結婚、出産を経て、30歳で念願の工房を建ててもらい、牛乳を使ったお菓子類の加工販売を実現しました。さらに、子育ての中で食育や食の安全性に関心を持ったことから、お菓子の原料の鶏卵のために、両親とは別に、自家配合飼料を使った平飼いの養鶏も開始。さらに、仲間

とマルシェも立ち上げ、あるいは、子育てグループを対象としたチーズ作り体験教室も開催しています。午前3時に起きて、精力的に活動する宮下さんにとって、今の生活はオランダで学んだように「利益追求だけではなく、生活の豊かさを大事にするための日々」なのでしょう。

以上、発表者6人はそれぞれに輝いており、この中で最優秀賞を選ぶことは、いつもながら難しいことです。特に、大渡さん、宮下さんのスーパーマン、スーパールーマンぶりは、みなさんの印象に強く残ったことと思います。こうした中で、審査員として、審査基準の①酪農との関わり、②周囲とのつながり、③活動の広がり、④目標と夢の実現性に照らして、そのすべてを満たし、また家族の役割分担の下、地域や酪農仲間とともに、その難しさも認識しながら六次産



新旧委員あいさつ

発表者の表彰に続き、16日の酪農青年女性会議総会で役員改選が実施されたため、新旧委員の紹介が行われました。

今回で退任される委員を代表して大井幸男前委員長より「4年間委員長を務めた中で、口蹄疫、東日本大震災と2年連続で大会が開催できなかった事や、意見・体験発表で農林水産祭を返上して、自由な発表ができるようにした事など様々なことがあった。自問自答しながらやってきたが、このよ

うにたくさんの方に来ていただいて、やってきてよかったと心から思う」と、感謝を述べられました。続いて、新委員を代表して半澤善幸委員長より「これから2年間、全国の委員として、酪農発展の一助になるよう頑張っていきたい」との決意が述べられました。

新しいメンバーのもと、引き続き日本の酪農業振興を目指して活動していきますので、今後ともご理解、ご協力のほど、よろしくお願いたします。



◀ 大井前委員長



半澤委員長 ▶



◀ 旧委員



▶ 新委員

ゆとりをもって、 長く続ける酪農

9月の嫁 寺島牧場 寺島みち子さん

「嫁・婿が語る酪農の魅力」第21弾として、
寺島牧場の寺島みち子さんにお話を伺いました。



嫁
婿
が
語
る

酪農の魅力 ②1

— 寺島牧場の概要について教えてください —

私たちの牧場は北海道芦別市にあります。所属組合は滝川農業協同組合です。芦別市は北海道のほぼ中央に位置し、旭川市や富良野市に接しています。山間の内陸性の気候なので、夏はとても暑く、冬は雪が多く寒さがとても厳しい所です。

我が家は芦別市でも山側の傾斜地に構えています。現在の飼養頭数は経産牛45頭、育成牛20頭です。自給飼料として、借地と併せて60haの草地でオーチャードとチモシーを作っています。その内24haは放牧地として利用しており、5月から10月にかけて放牧をおこなっています。

家族構成は主人（浩さん57歳）、私（みち子さん55歳）、義母（美智子さん83歳）、三男（奈緒人さ

ん26歳）の4人です。長男と次男がいますが、2人とも家を出て札幌で就職しています。

現在の牧場の主な労働力は主人と私、義母です。牛舎作業や草地の刈

取りなど主な作業は私と主人が、義母は搾乳をしてもらっています。義母は今年で83歳になるのですが、今でも元気に作業をこなしています。三男は滝川市の市営牧場に勤めていますが、仕事の合間に作業を手伝ってもらっています。

— ご主人と結婚するまでの経緯を教えてください —

私の実家はオホーツク管内の湧別町で酪農を営んでいます。私は小さなころから酪農が好きで、高



▲牛舎遠景



牛舎内

校卒業後には酪農学園短期大学に進学しました。主人とは大学の少林寺拳法部で出会い、卒業間際の12月に交際をスタートしました。主人は2つ年上でしたが、4年制に進んでいたので卒業は同時期でした。そのあと私は長沼町にある会社就職。主人は実家に戻って就農し、遠距離恋愛がスタートしました。もともと2年もしたら退

職して結婚するか、実家を手伝おうと考えていましたが、就職して1年が経った頃、実家の祖父が脳梗塞で倒れました。また、祖母はスモン病を患っており、両親は牛舎作業と祖父母の介護に追われることになりました。

そんな両親を放っておけず、私は会社を退職。実家にもどり家業を手伝うことになりました。実家では牛舎作業から祖父母の介護までこなす忙しい毎日。そんな中でも主人との交際は途切れることなく、大学卒業後2年目には結納までこぎつけましたが、結局、私が実家から離れられずに入籍はその1年以上後になりました。

結婚してからのお話をお聞かせください

結婚した当時、主人の父はすでに亡くなっており労働力は主人と義母だけでした。そこに私も加わりましたが、とにかく忙しかったです。今のようにはトラクターなど

の機械もそろっておらず、また自給飼料畑の面積はあったのですが、飛び地が多く、作業にとても時間がかかりました。3人の子供に恵まれましたが、義母も仕事をしているので、子供を見てもう人がおらず、子供を背負ったままトラクターで作業をしてました(笑)。とにかく時間に追われて仕事をしていましたね。

酪農のどんなところに魅力を感じますか？

家族と一緒に働いて、お互い何をやっているのか仕事の中身が見



放牧地

えること。それと、頑張れば頑張っただけ結果がはつきりと返ってくる場所です。乳量増に頑張っていたころは、1頭当たりの年間乳量が1万kgを超えていました。あの時は達成感がありました。

今はデントコーンをやめ、放牧と牧草を主体にして1日2kgの配合飼料を与えています。乳量は確かに落ちましたが、労働力を考えると、デントコーンをたくさん作って配合飼料をたくさん与えるような作業を続けるのは難しいと思います。若いころはやってきましたが、今は体に無理をできませんしね(笑)。周りの酪農家さんはほとんど減っていつてますが、それよりはゆるゆると長く続けていきたいと思っています。

今後の目標についてお聞かせください

いかにコストをかけずに経営をするか、いかに体に負担をかけず

に働くか。無理をせずに低投入持続型酪農を続けていきたいと思っています。年金支給まであと10年あるので、ここまで元気に酪農を続けるのが、今のところの目標です。今は三男が帰ってきて手伝ってもらっていますが、今後牧場を継ぐかどうかはまだわかりません。そういう話もしていませんし、こればかりは本人のやる気次第です。

昨年は結婚して30周年というところで、夫婦で泊りがけの旅行に行きました。新婚の時はあまりに忙しくて新婚旅行にも出かけられなかったのですが、いまではこんなゆとりもできました。これから人にも牛にもゆとりある生活を続けていきたいです。

ご主人に一言お願いします

これから無理をせず、お互い健康で元気に頑張っていきたい。

東京
支所発

野口弘子氏 全国酪農青年女性酪農発表大会 最優秀賞受賞祝賀会 盛大に開催される

第43回全国酪農青年女性酪農発表大会の酪農意見・体験発表の部で最優秀賞を受賞した野口弘子さんの受賞祝賀会が、8月22日(金)、宇都宮市内の「ホテル東日本宇都宮」において、生産者及び組合関係者あわせて約50名が出席し、盛大に開催されました。

祝賀会発起人である金子和弘会長（栃酪青年部連合会・女性会）より主催者挨拶があり、来賓挨拶では栃木県酪農業協同組合 石川正美組合長、栃木県農政部畜産振興課 杉本宏之課長が挨拶され、関東甲信越酪農青年女性会議 小森崇宏委員長より、乾杯のご発声で祝宴の幕が開きました。会場内では出席者の皆さんが共に受賞の喜びを分かち合い、野口さんは、「人生に悔い無し♪現在進行形♪」と受賞の喜びと今



◀ カウベル屋台

記念写真 ▼

◀ 乾杯ドリンク

後もまだまだ頑張りますと語られました。会場ではアイス工房「カウベル」屋台が出展し、ヒット商品の「はと麦ゼラート」に加え、今回特別に野口さんの家で収穫されたブルーベリーを使ったゼラートと栃木県産マンゴーのゼラートの3種類が振る舞われました。

野口さんにおかれましては、今後とも酪農経営の安定はもとより、地域リーダーとして、そして、栃木県の酪農青年女性会議、また、酪農の発展に向けてご尽力いただくことをご祈願申し上げます。(O.K)

本所発

平成26年度全国畜産縦断いきいきネットワーク大会を開催!!

8月27日(水)、東京都千代田区日比谷図書文化館にて、平成26年度全国畜産縦断いきいきネットワーク大会（事務局：(公社)中央畜産会）が開催されました。全国の畜産に関わる女性達が畜種を超えた交流を行うことを目的に発足したこの大会。記念すべき10年目を迎える今年は記念大会ということもあり、畜産に関わる女性とその関係者約100名（うち女性は8割程度）が結集しました。



▲ 歴代会長による10年の振り返り

毎年恒例の寸劇に続いて、歴代会長4名が10年を振り返り、発足までの経緯

▶ MAKOさんによる発表



▲ CowMix

と当時の想いを語られました。また、今回は千葉県畜産後継者と消費者の女性で結成された「CowMix」のメンバーで、酪農家の嫁であるMAKOさんより、家族間での工夫や、女性の力の重要性を話された後、ライブを行いました。

最後に、今年初めてとなる参加者全員による1分間スピーチもあり、「明日からの元気をもらえた」「経営は苦しいけれど、全国に仲間がいると思うと頑張れる」と力強いお言葉を聞くことができました。会場は終始笑いの絶えない雰囲気になり、畜産女性の力を再認識する機会となりました。(K.S)



杉崎さんご家族 ▲

No.256
杉崎亮太牧場
愛知県西尾市

ガッツな酪農経営

地域の紹介

西尾市は、愛知県の中央を北から南に流れる矢作川流域の南端に位置し三河湾に面しており、工業では、有名なアイシン精機やデンソーの大規模事業所が存在し、農業においては、コチヨウラン等洋ランの生産高日本一を誇り、バラ、カーネーションの他、観葉植物、植木栽培も盛んです。海苔養殖、アサリの採貝、ウナギの養殖も行われています。

一色町は、2011年4月に西尾市に合併編入されており、同町は特にカーネーション、ウナギの生産で有名であり、市町村別生産では、前者はトップクラス（2001年度はトップ）の生産額、後者も日本一の生産量を誇っています。大消費地の名古屋市を背景にした近郊農水産業地域となっています。

杉崎牧場が所属する愛知県酪農農業協同組合（杉浦弘泰代表理事組合長）は、組合員数340戸で193,228t（平成25年度受託乳量）を生産しています。

経営の概況、歩み

杉崎牧場の家族は、本人の亮太さん（30）、奥様の弥生さん（30）、お子様が3人（小4女子、小2男子、1歳女子）とご両親と弟さんの8人です。牧場は、混住化が進む県道沿いに位置し、対頭式繋ぎ牛舎と育成、乾乳舎があり、経産牛50頭、哺育・育成牛10頭を飼養しており、他に北海道に預託育成牛12頭が上牧中です。酪農に従事しているのは亮太さん夫婦のみで、作業分担は特に決めておらず、以心伝心、ベストバランスで日々の作業をこなしているとのこと。亮太さんは4代目に当たり、初代から2代目途中までは梨の栽培



を中心とした2〜3頭飼養の複合経営でしたが、梨が台風被害に遭ったのを機に酪農専業を志向し、現在の牛舎は、昭和59年（亮太さん誕生の前年）に祖父が建設したものです。亮太さんは、幼いころから違和感なく自然に酪農に同化し、中学校時代はよく手伝ったと自負されています。農業高校を卒業後、愛知県立農業大学校に進学、卒業と同時に就農されていますが、なんと、大学校在学中に、動物好きの奥さんと出会い、結婚という幸福を相当早期に掴み取っておられます。

飼料は全て購入

この辺は、潮風の塩分の影響で良いものではないと亮太さん。近年、円安や相場上昇で配合飼料、輸入粗飼料が高騰していて、自給粗飼料との併用経営でも非常に厳しい中、そのオール購入の大変さを問うと、生産費の約半分を占める飼料費が極めて重いので自分でできる努力は惜しまないとのこと。粗飼料については、引き取りに行くことやコンテナ屑利用にも

努めているとのこと。また、購入価格には敏感になるが、安物買いで生産性を落としたくないので、そのことについては十分吟味していると言調されています。

年に最低1回は牛群別の血液検査を実施し、その改善と飼料コスト低減を目的に、配合飼料以外に自家配合を手造りし、飼料給与については、朝、昼、夕の多回給与を実施されています。

暑い取材日も2頭に1台の大型扇風機がフル回転し、屋根開放型の牛舎には地下水が散水水中でした。来年には細霧装置も導入するよ、と暑熱対策にも力を入れておられます。

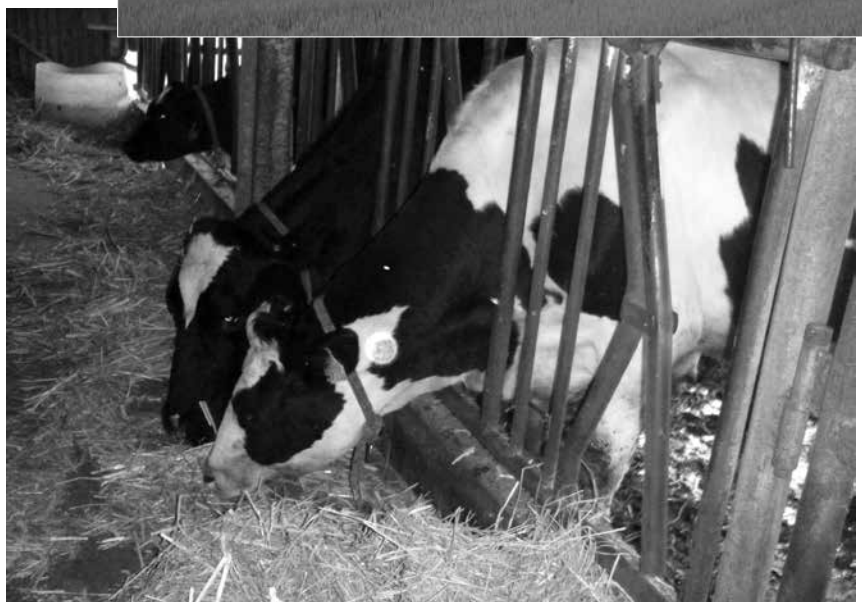
空いた時間はアルバイト

昼間の空いた時間には、農業関係、佐官業等、自ら仕事を探してアルバイトを行っているとのこと。「飯食うために、家族のために頑張らなきゃ」という力強い言葉に感心させられます。毎月取っているヘルパーの日もアルバイトの時があるそうです。でも趣味の釣りにも行くし、飲酒、喫煙もや

▶ 牧場全景



◀ 牛舎内の様子



るし、特に不満はないよと亮太さん。メリハリのつけ方、時間の使い方が上手いのだと思います。

みんなの理解、協力で経営成立

経営が継続できるのはみんなのおかげだと感謝の気持ちを忘れない亮太さん。今の経営があるのは、

西尾市の鈴木誠獣医師をはじめ愛知県酪農協や酪農仲間、色んな人達に支えられているからと強調されています。

飼料作付を行っていない酪農の糞尿処理を聞くと、祖父の代の昭和62年に、7戸の酪農仲間が共同して一色東部酪農有機質組合を設立し、自分たちで運営、作業を行



ポニー



▲▶ 保育園児の訪問



い、完熟堆肥化し販売処理しているそうです。仲間が減り、現在は2戸になりましたが、周辺の野菜、園芸農家への販売は不足する場合もあるとのことです。

酪農ヘルパーについても、酪農家が減少してきており、その組織運営が厳しくなってきたとのことで、戸数減少は残った酪農経営にもリスクを与えることを改めて認識させられました。

亮太さんも、自分の経営だけに孤立せず、できることは協力したいと、これまで西尾市の青年部長

をはじめ任意組織の役員を歴任されており、現在は愛知県酪農農業協同組合青年女性部の監事を務められています。

子供たちが喜ぶ経営を！

2人の子供たちは、牛舎の手伝いを良くしてくれており、友達もしょっちゅう連れてくるそうです。ペットとしてポニー、ヤギ、チャボを飼っている杉崎牧場は、一層の親しみを与えているようです。近年は保育園児の受け入れも実施しており、子供たちに将来の

ことを聞くと「獣医さんになりたい。牛を飼いたい」との返事。頼もしい限りです。

今後の課題については、夫婦2人の日本型酪農は50頭と考えているので、とにかく搾乳をフル回転するために乾乳舎を建てたいとのこと。遠い将来の夢は語らず、目の前の現実的な目標を明言される姿に着実性を感じました。

食料安全保障は 主権国家の最低要件

食料自給率が39%とこんなに低い先進国はない。これ以上廃業が続くと将来大変なことになるのではと亮太さんは心配されています。さらに、酪農家個々の努力も限界であり、共助も強化すべきであるが、国を中心に、酪農家が飯が食えるよう、力強い賢明なる公助が今、必須ではないかと主張されています。

飼料を全て購入という特に厳しい経営環境で必死に頑張っておられる亮太さんの言葉に反論不能な状態でありました。

最後に

終始、明快に回答される亮太さん。その横で口数少なくうなづく弥生さん。内助の功に支えられ、動物好きの子供たちに囲まれ、必死で頑張っているガッツな亮太さん。さわやかな若夫婦の酪農経営の取材を終え、杉崎牧場の発展を祈念しつつ帰路につきました。

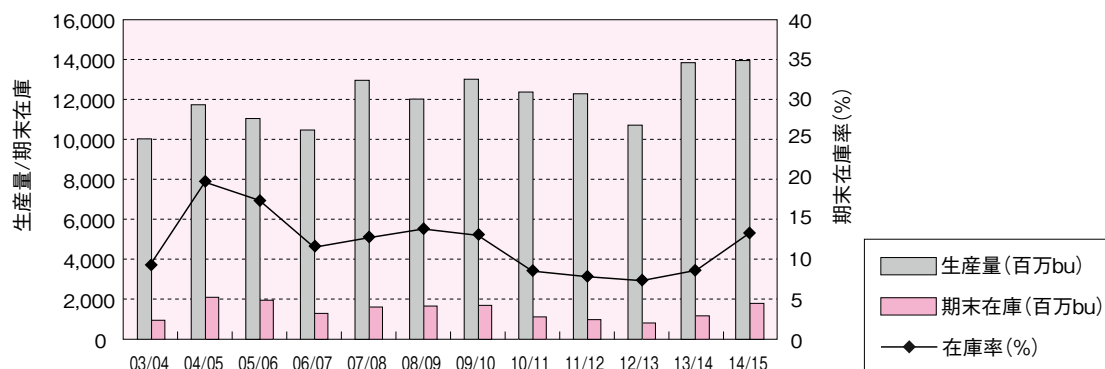


原料情勢

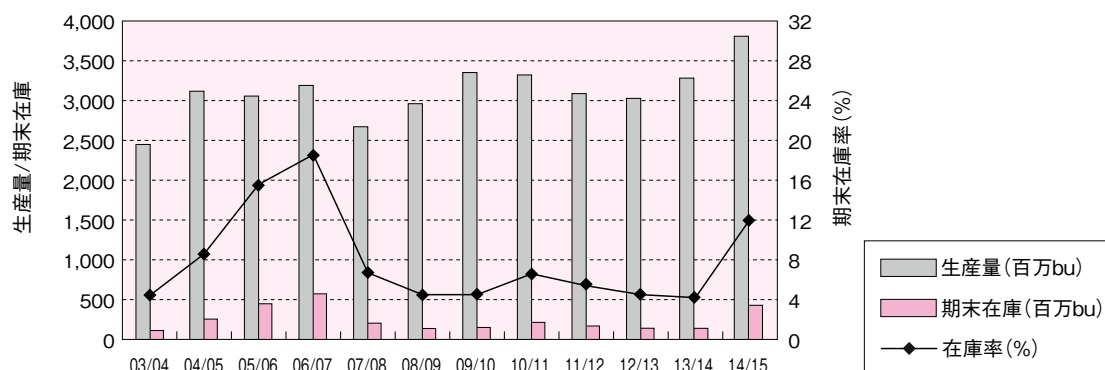
平成26年8月

8月12日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	【13/14年産】 作付面積95.4百万(前月95.4百万) エーカー、単収158.8(158.8)bu/エーカー、生産量139億2,500万(139億2,500万) bu、総需要量136億(135億3,500万) bu、期末在庫11億8,100万(12億4,600万) bu、在庫率8.7(9.2)%。
	【14/15年産】 作付面積91.6百万(前月91.6百万)エーカー、単収167.4(165.3)bu/エーカー、生産量140億3,200万(138億6,000万) bu、総需要量134億3,500万(133億3,500万) bu、期末在庫18億800万(18億100万) bu、在庫率13.5(13.5)%。
トウモロコシ 相場動向	6月後半から値下げが続くシカゴ相場は、米国産地での良好な天気により下降トレンドが継続。ウクライナの情勢不安から一時価格が上昇したが、米国産地での乾燥懸念が払拭され豊作期待が高まり、軟調に推移し360¢台の値動き。今後も生育にとって最適な冷涼湿潤の気候が続く見通しのため、再び下落ムードが盛り上がる可能性もあるものの、ウクライナの情勢不安等で穀物輸出に支障が生じるとの懸念から、さらなる下落は難しいと思われる。
8月12日発表 米国農務省 大豆需給予想	【13/14年産】 需給両面で減少があり、期末在庫1億4,000万(1億4,000万) bu、在庫率4.2(4.1)%
	【14/15年産】 供給面での増加を受け、期末在庫4億3,000万(4億1,500万) bu、在庫率12.1(11.7)%
大豆粕相場動向	シカゴ大豆相場は、トウモロコシ同様に豊作予想で、天候にも恵まれ値下げが続く。国産大豆粕について、生産量は例年並み。比較的安価な輸入品に需要がシフトし余剰感があつたが、現在は落ち着きを取り戻している。また、輸入品は4-6月期の輸入量が前年比20t増となり、国産からの移行が顕著となっている。主な輸入元である中国では、US産原料大豆の輸送コスト上昇が見込まれており、価格は堅調に推移するものと思われる。
糖類	国産フスマの発生量は減少しているが、豚PED等の影響により需要も減退しており、需給バランスは取れている。春に懸念されていた内航船不足は根本的には解決しておらず、遠隔地での受け渡しに影響が出る可能性がある。グルテンフィードの発生量は増加。フスマ同様に豚PEDの影響を受け飼料需要は低調なことから若干の余剰感がある。今後は、発生量の減少が見込まれること、内航船確保が難しくなることから価格の上昇には注意が必要。
海上運賃	中国向け鉄鉱石の荷動きの増加、米国穀物輸出ピークに向けた稼働可能船腹の需要の高まりを受け、各船会社とも強気姿勢を崩しておらず、日本への海上運賃は小幅に上昇。今後も上昇する可能性がある。

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移



輸入粗飼料の情勢

平成26年8月

北米コンテナ船 フレート	北米西海岸での労使交渉に進展は見られず、最悪の場合ストによる各港の閉鎖も懸念されていたが、米国全体の経済に与える影響も考慮し、協約がない状態でも港湾作業を通常通り行うことが発表された。しかしながら、予断を許さない状況に変わりはなく、緊張感は続くものとみられる。
ビートパルプ	【米国産】14年産作付が終了。産地では初期の生育期に降雨が続いたため、単収が例年より少なくなることが予想されている。かねてから欧州の引合いが強く、中国産の輸出向けがゼロとなっていることから、産地価格は堅調に推移している。 【中国産】13年産の作付面積は前年よりも減少しており、国内向け需要もさらに増えている模様。輸出数量はほぼゼロで推移するという予想が多数を占める。
アルファルファ	【ワシントン産】産地では2番刈の収穫が終了し、3番刈の収穫が進む。雨当たり被害は1番刈で10%程度、2番刈も20%程度で、全般的にドライ気味な品質の仕上がり。産地価格は高騰しているが、米国内酪農家の積極的な買付により余剰はあまりない見込み。 【オレゴン産】産地では2番刈の収穫が進む。雨当たり被害はクリスマスフォールズの1番刈で5%以下、2番刈で10～20%となったが、クリスマスバレーは1番刈の50%、2番刈の60%と差が見られる。両産地とも1番刈のノーレイン品の品質は良好と伝えられているが、カリフォルニア州内酪農家からの引合いが強く、産地価格は非常に高値で推移している。 【コタ産】2番刈の収穫が終盤を迎えている。雨当たり被害は1番刈はほぼ無かったが、2番刈は一部あった模様。 【ネバダ産】2番刈の収穫が終了。1番刈で40～50%、2番刈で50%程度の雨当たり被害が発生した。干ばつの影響で農業用水が不足し、シーズン途中で終了する圃場も出てくるのが懸念される。 【北カリフォルニア産】産地では3番刈の収穫が終了。4番刈の収穫が始まっているが、色あせがみられるスタックが多くなっている模様。干ばつの影響を最も受けている地域で、シーズン途中で収穫を終了する圃場も多く出てくるのが懸念される。 【インペリアルバレー産】14年産作付面積は前年比105%。産地では4番刈の収穫が終了し、一部では5番刈の収穫が始まっているが、種取り用の圃場も見られることから、今後生産量は減少する見込み。産地価格は軟化傾向にあるとも伝えられているが、一般的に成分・品質が落ちるサマーヘイと呼ばれる発生が中心となることが大きな理由。中国向けは高い産地価格も許容され始めたのか、コンスタントに輸入されている一方で、UAEはスペインや南アフリカ、エジプト等から輸入をしているとも伝えられている。
チモシー	【米国産】産地では1番刈の収穫が終了。今年は作柄も良く、価格が軟化傾向と伝えられていたが、日本向けの強い引合いを受けて、一転して値上がりしているのが現状。14年産についても、費用対効果のある価格帯ではなくなっている。 【カナダ産】レスブリッジでは1番刈の収穫がほぼ終了。収穫期の天候に恵まれず、プレミアム品の発生は限定的となっている。クレモナでは、収穫が30%程度の進捗。収穫を終えた圃場ではプレミアム品も発生しているようだが、8月上旬に天候が崩れたため、その後は収穫が一時中断されているとも伝えられている。
スーダン	【インペリアルバレー産】小麦の作付面積が減少したことから、早播きスーダンの作付面積は増加した。2回目の収穫が可能な早播きが増えていることから、生産量は昨年よりも増加すると予想されている。産地では、1番刈の収穫が終了し、早播き2番刈と遅播きの収穫が進むが、雨当たり被害が発生している模様。温暖な気候のため、昨年より10日から2週間早い進捗。早播き1番刈りは茎サイズのバラつきがあまりなく、前半戦は過去3～4年で最高の作柄と言われているが、色抜け品・ライトカラー品の発生は少ない傾向。14年産は、生産量が多いにも関わらずサプライヤーが積極的に買付けたため、産地価格は昨年よりも高値で推移している。小麦収穫後の遅播きは、小麦の作付面積が減少したことにより、生産量の減少は見込まれていたが、雨当たり被害により良品の発生も少ない見込みとなった。一方で、日本向けの引合いは引き続き強く、今後も産地価格は堅調に推移すると予想される。
クレイン グラス	インペリアルバレーの7/15時点での作付面積は前年対比98%。現在3番刈の収穫が終盤戦を迎えているが、3番刈、4番刈の一部で雨当たり被害が発生している模様。産地価格は、韓国・日本向け共に引合いが強く、堅調に推移していると伝えられている。それでも禾本科牧草の中では相対的に割安感があるため、チモシーやスーダンからの切り替えも有益であると思われる。
バミューダ	インペリアルバレーの7/15時点での作付面積は、前年対比96%。例年1番刈は種取り用圃場が中心で、ヘイの生産は2番刈以降が中心となり、14年産では8月上旬から本格的に始まるが見込まれているが、8月2、3日でインペリアルバレー全域で降雨があったことから作付への影響が懸念される。
ストロー類	14年産の米国産ストロー類の作付面積は昨年よりも増加する見込み。トールフェスクは収穫が終了。ペレニアルライグラスは7月上旬から収穫が始まり、5割程度の進捗だが、雨当たり被害が発生している模様。米国産ストローは予想よりも引合いが伸びていないとも伝えられる。
オーツヘイ	13年産は、雨当たり被害はあるものの大半が軽い雨で済んでいるため、ハイグレード品は限定的で、見た目がきれいなローグレード品が多く発生している。ハイグレード品の価格は強含みで推移しているものの、中間・ローグレードの価格は弱含みで推移しており、日本・韓国・中国向け全て荷動きが順調。中間グレードを中心に15年への繰越在庫が多数発生する見込みだったが、予想より余剰感はなくつつある。産地では14年産の播種が終了。どの産地でも4-5月に降雨があり、土壌水分に大きな問題はないと言われているが、オーツヘイより播種時期が早く、安定的な収益が見込める小麦やキャノーラの作付が増えていることから、14年産作付面積は10%以上も減少していると予想されている。

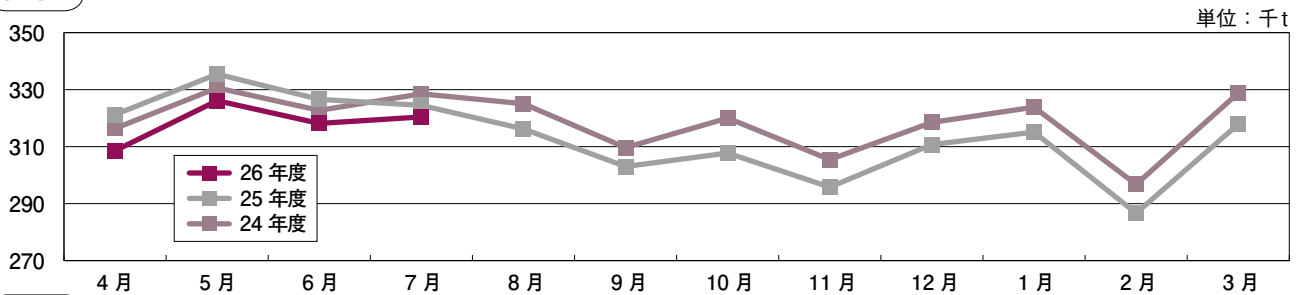
生乳受託販売乳量

受託販売乳量

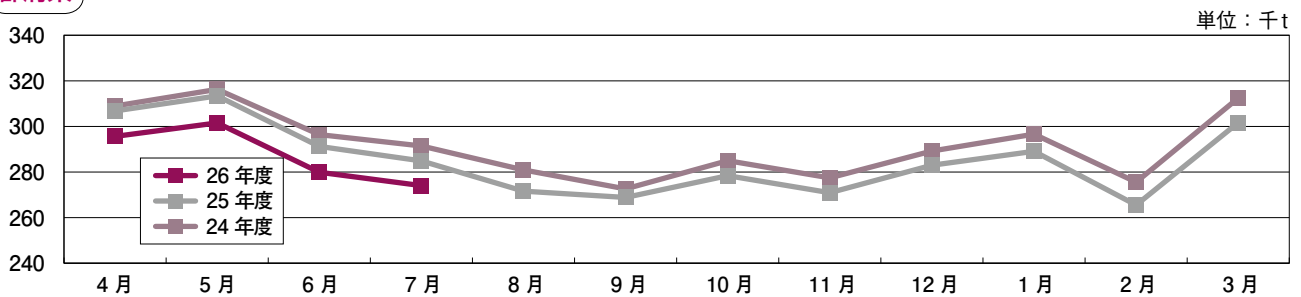
全国 594,472t で、前年同月比 14,894t(2.4%) 減少
北海道 320,427t で、前年同月比 4,052t(1.2%) 減少

都府県 274,045t で、前年同月比 10,842t(3.8%) 減少

北海道



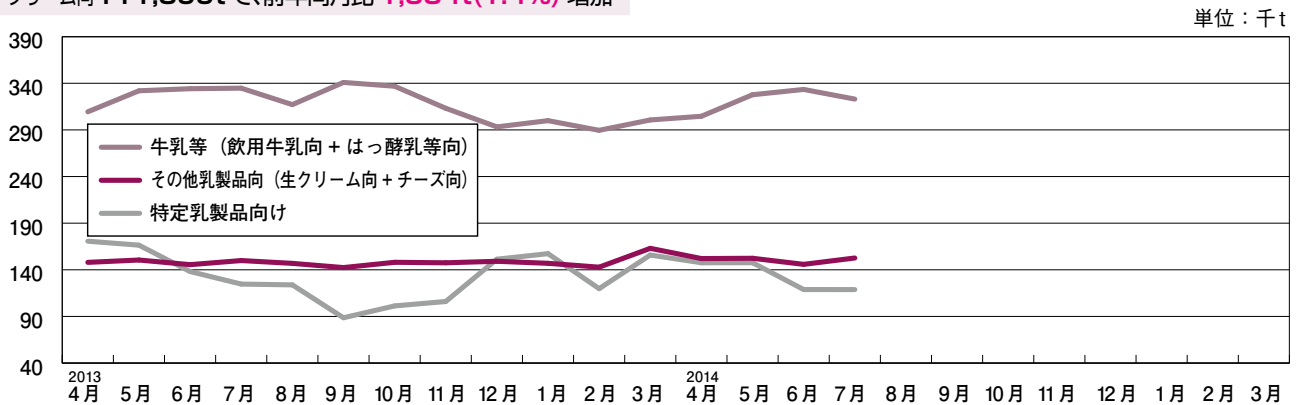
都府県



用途別販売数量

飲用向 280,042t で、前年同月比 9,885t(3.4%) 減少
はっ酵乳向 42,992t で、前年同月比 1,836t(4.1%) 減少
クリーム向 111,399t で、前年同月比 1,534t(1.4%) 増加

チーズ向 41,259t で、前年同月比 1,205t(3.0%) 増加
特定乳製品向 118,779t で、前年同月比 5,912t(4.7%) 減少



各地の需給動向

*前年比については、閏年修正を行っておりませんのでご注意ください。

【東北】7月の生産は前年比 95.8%。一方需要は、生産の減少からタイトな状態からのスタートとなったが、下旬は需給が緩和した。その結果、飲用牛乳等向前年比 96.5%、特定乳製品向け 93.2%となった。

【関東】生産は、96.9%と前年比は少し回復。需要は当初逼迫が予想されたが、特売自粛や生産の上ブレ等もあり逼迫感無く推移した。その結果、飲用牛乳向けは前年比 94.3%と減少、特定乳製品向けは 131.0%と大きく増加した。

【東海】生産は前年比 95.8%。上旬から下旬にかけて日量は減少傾向。特に愛知の生産減少が大きくなっている。飲用牛乳向け 93.8%、特定乳製品向け 133.5%。

【近畿・中国・四国】生産は近畿 93.7%、中国 95.0%、四国 95.1%。一方処理は、特売を控えた事や台風上陸の影響もあり、当初予測されたような逼迫感は無く推移した。(飲用牛乳向け前年比：近畿 93.7%、中国 94.3%、四国 98.6%)

【九州】生産は 97.1%。処理は上旬には逼迫感があつたが、中旬の台風上陸の影響により需給は緩和した。その結果、飲用牛乳向け 94.6%、特定乳製品向け 95.8%となった。

用途別生乳処理量

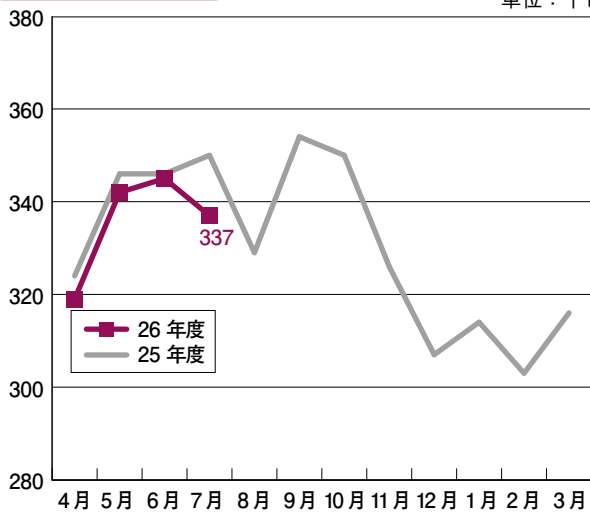
単位：千t

年月	生乳生産量	用途別処理量計								年月	生乳生産量	用途別処理量計							
				乳製品向										乳製品向					
				牛乳等向 ①	特 定 乳製品向 ②	その他乳製品向								牛乳等向 ①		特 定 乳製品向 ②	その他乳製品向		
			ク リー ム 向 ③			チ ー ス 向 ④				ク リー ム 向 ③	チ ー ス 向 ④								
2013. 4 月	650	645	324	321	171	150	106	44	2014. 4 月	627	622	319	303	148	155	112	43		
5 月	671	666	346	320	167	153	107	46	5 月	650	645	342	303	148	155	112	44		
6 月	638	633	346	287	141	147	105	42	6 月	619	614	345	269	120	149	108	41		
7 月	632	627	350	278	126	151	109	42	7 月	618	613	337	276	120	156	113	43		
8 月	608	603	329	274	127	147	107	40	8 月										
9 月	593	588	354	235	91	144	107	37	9 月										
10 月	608	604	350	253	104	150	109	40	10 月										
11 月	588	583	326	257	108	149	111	38	11 月										
12 月	616	612	307	305	153	151	114	37	12 月										
2014. 1 月	626	622	314	308	158	150	103	47	2015. 1 月										
2 月	573	568	303	265	121	144	102	43	2 月										
3 月	643	638	316	322	159	163	117	47	3 月										
年 度 計	7,447	7,390	3,964	3,426	1,626	1,800	1,298	502	年 度 計	2,514	2,494	1,343	1,151	536	615	444	171		

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

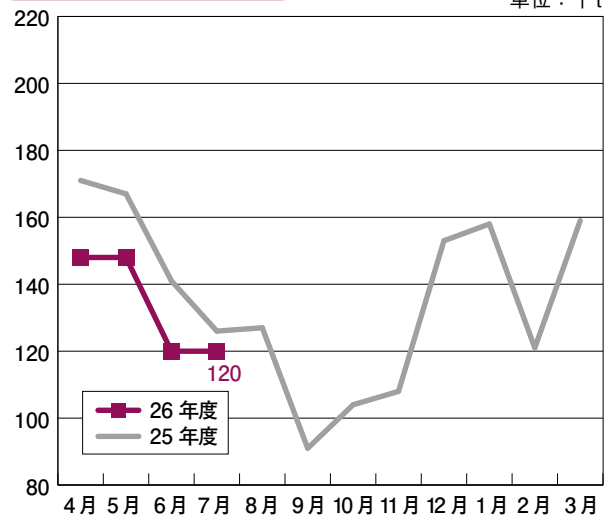
① 牛乳等向処理量

単位：千t



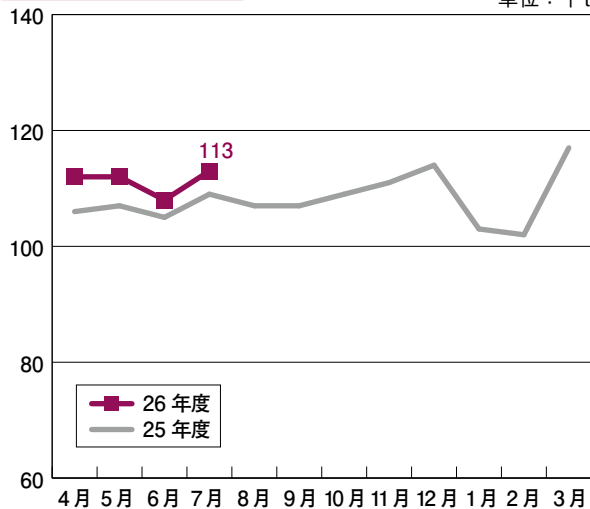
② 特定乳製品向処理量

単位：千t



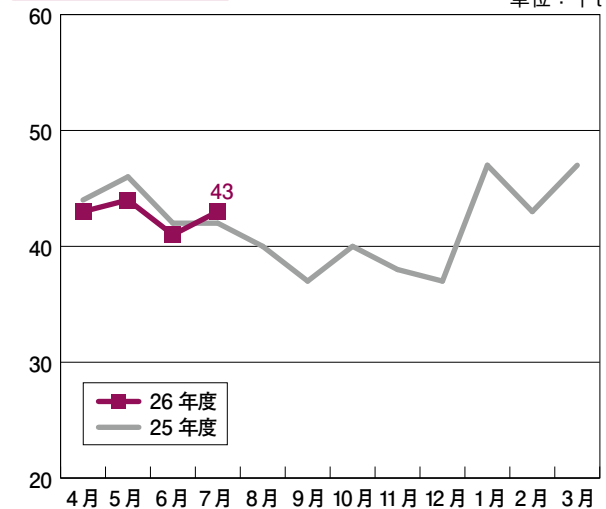
③ クリーム向処理量

単位：千t



④ チーズ向処理量

単位：千t



特定乳製品（脱脂粉乳・バター）の国内生産及び出回り量の推移

※生乳需給動向の指標となる特定乳製品の生産及び消費の動向です。

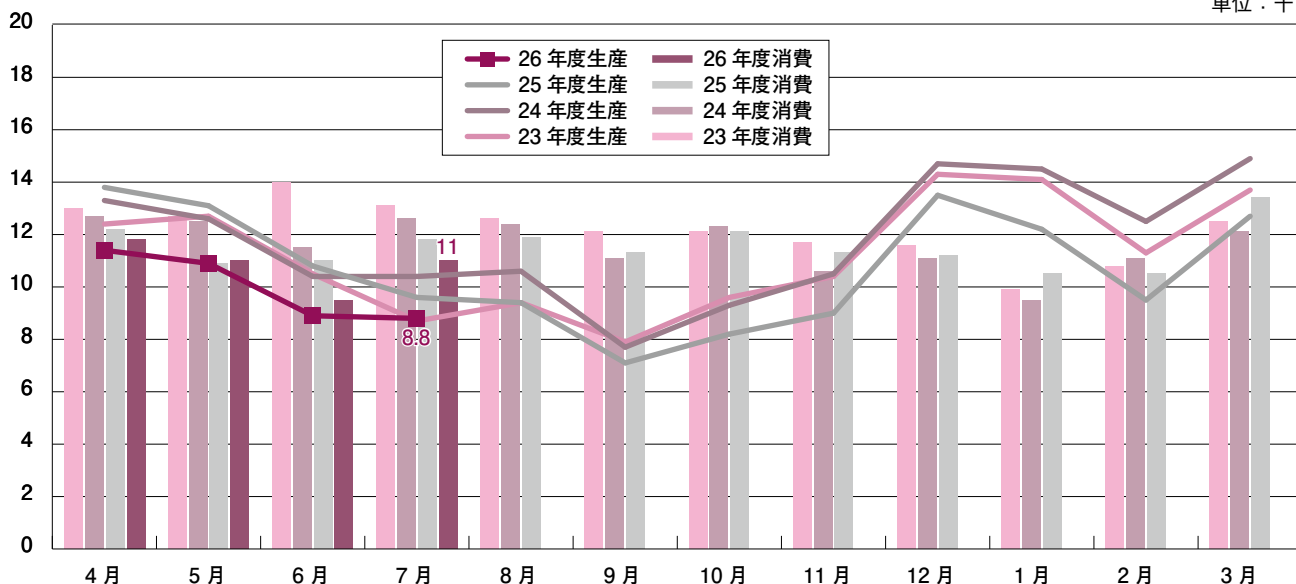
単位：千t

年月	脱脂粉乳生産量	脱脂粉乳消費量	バター生産量	バター消費量	年月	脱脂粉乳生産量	脱脂粉乳消費量	バター生産量	バター消費量
2013. 4月	13.8	12.2	7.0	6.1	2014. 4月	11.4	11.8	6.3	6.4
5月	13.1	10.9	7.0	5.5	5月	10.9	11.0	5.7	5.0
6月	10.8	11.0	5.7	5.8	6月	8.9	9.5	4.9	4.7
7月	9.6	11.8	5.1	5.8	7月	8.8	11.0	4.7	5.7
8月	9.4	11.9	5.1	5.7	8月				
9月	7.1	11.3	3.6	5.0	9月				
10月	8.2	12.1	3.9	5.5	10月				
11月	9.0	11.3	4.2	6.2	11月				
12月	13.5	11.2	5.5	7.3	12月				
2014. 1月	12.2	10.5	6.5	4.9	2015. 1月				
2月	9.5	10.5	4.8	5.7	2月				
3月	12.7	13.4	6.0	6.9	3月				
年度計	128.8	138.0	64.3	70.5	年度計	40.0	43.3	21.6	21.8

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、農畜産業振興機構、農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課調べ

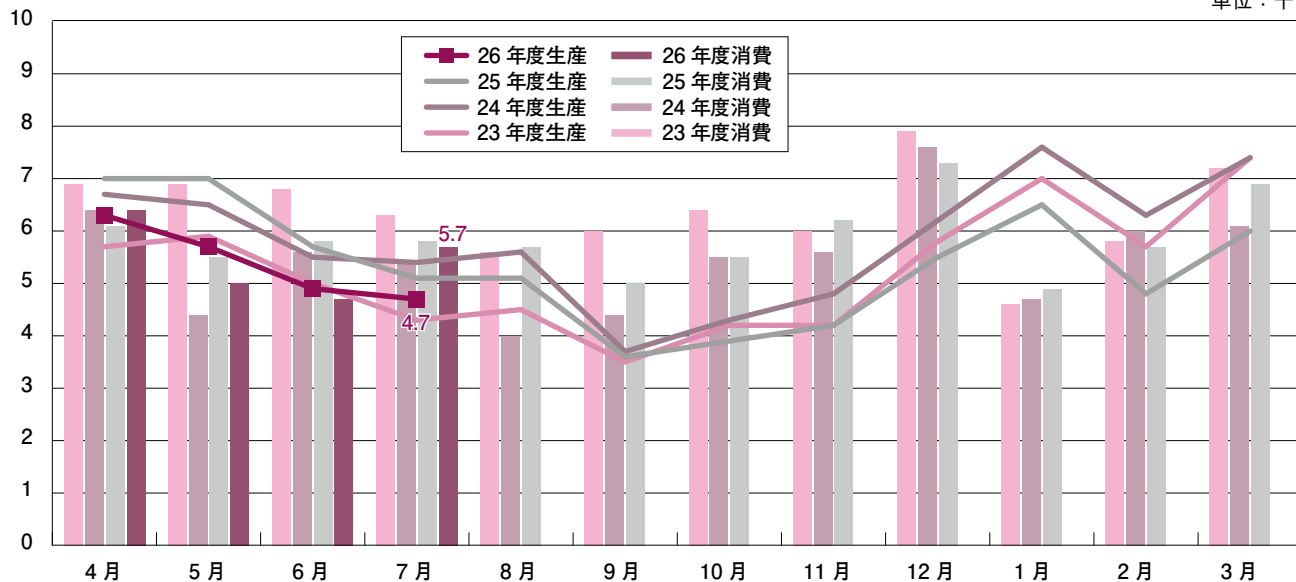
脱脂粉乳の生産及び出回り量推移

単位：千t



バターの生産及び出回り量推移

単位：千t

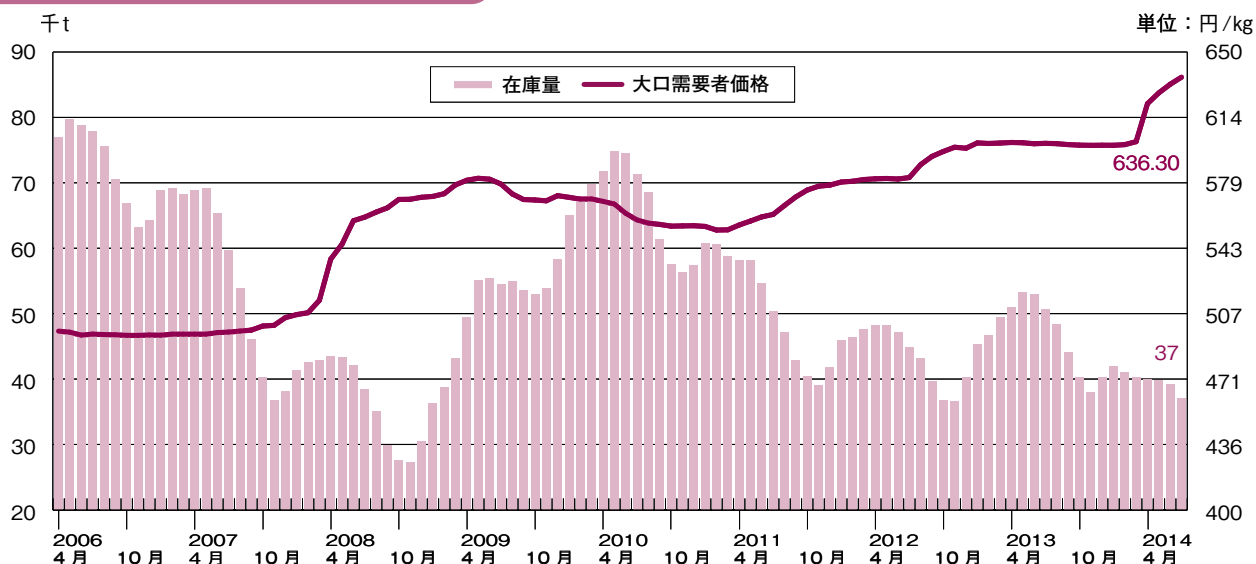


脱脂粉乳・バターの国内在庫及び大口需要者価格の月別推移

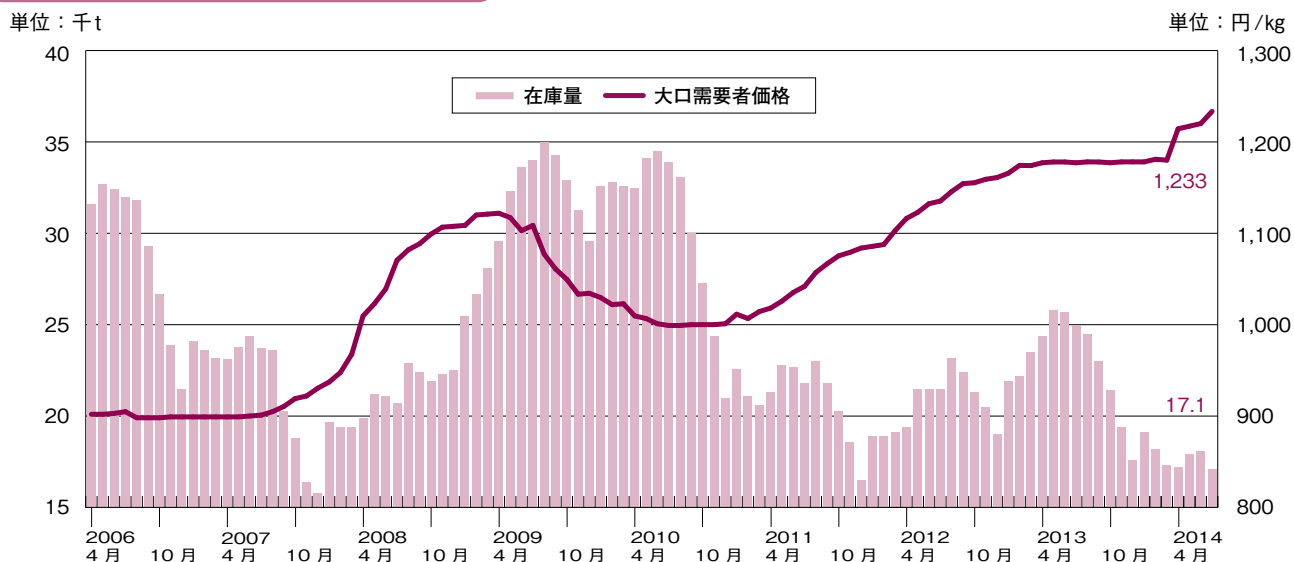
区 分	バター		脱脂粉乳		区 分	バター		脱脂粉乳	
	期末在庫量	大口需要者価格	期末在庫量	大口需要者価格		期末在庫量	大口需要者価格	期末在庫量	大口需要者価格
年月	千t	価格 円/kg	千t	価格 円/kg	年月	千t	価格 円/kg	千t	価格 円/kg
2013. 4月	19.4	1,116.2	48.2	580.80	2014. 4月	17.2	1,214	39.9	621.83
5月	21.5	1,122.9	48.2	580.99	5月	17.9	1,217	39.8	627.73
6月	21.5	1,132.4	47.1	580.69	6月	18.1	1,220	39.2	632.42
7月	21.5	1,135.2	44.9	581.49	7月	17.1	1,233	37.0	636.30
8月	23.2	1,145.7	43.2	588.53	8月				
9月	22.4	1,154.3	39.7	593.03	9月				
10月	21.3	1,155.2	36.7	595.73	10月				
11月	20.5	1,159.0	36.6	598.06	11月				
12月	19.0	1,161.0	40.3	597.52	12月				
2014. 1月	21.9	1,165.7	45.3	600.42	2015. 1月				
2月	22.2	1,174.3	46.7	600.11	2月				
3月	23.5	1,174.3	49.5	600.34	3月				
年度計	257.9	13,796.2	526.2	7,097.71	年度計	70.3	4,884	155.9	2,518.28

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、大口需要者価格

脱脂粉乳 国内在庫・大口需要者価格推移



バター 国内在庫・大口需要者価格推移



酪政連活動報告

平成 26 年 7 月～ 26 年 8 月

日本酪農政治連盟

7/10	三役会議 ◆ 平成 27 年度酪農政策・予算確保に係る要請内容の検討、協議。	8/1	三役会、常任・中央常任委員合同委員会 ◆ 平成 27 年度酪農政策・予算確保に係る要請内容等について ◆ 生乳増産対策に関する緊急要請について ※ 上記について、検討・協議。
7/16	TPP 対応検討幹事会(事務局長) ◆ 平成 25 年度活動実績、決算報告について ◆ 平成 26 年度予算案、今後の活動について	8/26	自由民主党酪政会総会 ◆ 平成 27 年度酪農政策・予算確保に係る要請内容等について ◆ 生乳増産対策に関する緊急要請について ※ 上記について、集団要請を実施。 
7/25	九州酪政連協議会 農林水産省 挨拶回り(幹事長・事務局長)	8/27	農林水産戦略調査会・農林部会・農政推進協議会(副委員長・幹事長ほか) ◆ 平成 27 年度酪農政策・予算確保に係る要請内容等について ◆ 生乳増産対策に関する緊急要請について ※ 上記について、団体要請を実施。
7/28	TPP 交渉に関する政府対策本部説明会(幹事長) ◆ TPP 主席交渉官会合の結果概要説明、及び意見交換		
7/31	森山裕衆議院議員への御礼面会(委員長・幹事長) ◆ 畜産の現状、予算概況に係る説明、団体要請、意見交換		



あなたの作品が掲載されるチャンス！

酪農家さんからの投稿コーナー

このコーナーでは、酪農家さんから投稿いただいた写真をご紹介します。

産まれるって言われてとんできた息子

佐賀県 古川牧場

第 1 回目の今回は、佐賀県 古川牧場から届いた写真「産まれるって言われてとんできた息子」です。お産のお手伝いをしているお子さんがとても可愛らしい 1 枚です。

投稿
募集中

日常の何気ない瞬間を写真に収めて、投稿してみませんか？掲載希望の方は、下記アドレスまでメールをお願いいたします。また、多数の応募をいただいた場合は、順次掲載となりますことをご了承ください。 shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

北海道 乳牛産地情報

平成26年9月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇩……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	27~32	→	8月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計99.1%、累計95.8%、苫小牧管内月計102.6%、累計99.3%の実績。9月の初妊牛動向は11月~12月分娩となり、F1腹が販売の中心になるものと思われる。秋分娩の資源としては例年並みの見込みだが、都府県の需要は高まっており、引き合いは強くなるものと思われる。また、育成牛や経産牛については、横ばいで推移する見込み。
	初妊牛	48~53	▼	
	経産牛	43~48	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	28~35	▼	8月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計97.4%、累計95.9%、中標津管内月計98.1%、累計96.2%の実績。9月の初妊牛動向は、11月分娩中心で活発に購買される時期であり、道内外のメガファームや地元の新規就農などの購買が多くなる見込み。当管内では、新規就農者や地元酪農家が今月からホルス腹を中心に購買するため、F1腹とホルス腹の格差が少なくなり相場全体が底上げされる可能性もある。
	初妊牛	47~55	→	
	経産牛	45~48	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	27~32	→	8月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計100.3%、累計99.3%の実績。9月の初妊牛動向は11月分娩中心で、都府県の需要増と併せて、道内メガファームの導入も多いため、相場は横這いからやや強含みで推移する見込み。また、今月から十勝管内の乳牛市場は2回開催となるが、市場間隔の影響で9月後半にかけて相場が値上がりするものと予想される。ET腹は「安福久」母体のものは引き合いが強く、70万円前後の高値で取引されている。
	初妊牛	50~55	▼	
	経産牛	45~50	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	27~34	▼	8月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計98.9%、累計97.4%、北見管内月計99.6%、累計98.9%の実績。9月の初妊牛動向は、11~12月分娩の販売。8月下旬の市場動向では、10月分娩は都府県の引合いが徐々に強くなっており、道内大型酪農家の購買が多いように見受けられた。価格も上昇しているが、特にF1腹や分娩の近い腹が高騰し、乳牛の個体差による価格差も顕著に表れている。9月の相場、都府県及び道内大型酪農家の購買意欲が強いものと思われ、高値が予想される。
	初妊牛	48~55	▼	
	経産牛	40~45	▼	
道内総括	育成牛(10-12月令)	27~33	▼	道内の8月中旬までの生乳生産量前年比は99.0%、累計97.6%の実績。9月の初妊牛動向は、11月分娩中心。資源的には例年並みと思われるが、道内各地で生乳生産対策を実施していることから、購買需要は多い見込み。相場については、F1腹は依然として強いが、道内需要も多いことから雌雄選別精液、ホル腹も強くなってきている。腹の中身による価格差より乳牛の個体差による価格差が大きくなってきているため、平均的な初妊牛は実際の市場平均より高値で取引されている。
	初妊牛	48~55	▼	
	経産牛	43~48	→	

※上記相場は、血統登録牛(中クラス)の庭先選畜購買による予想相場です。庭先選畜購買のため、市場購買とは異なり、価格差が生じます。

今月の表紙

牧場へようこそ

今月の表紙は、「第5回酪農いきいきフォトコンテスト」(第43回全国発表大会にて開催)で入選に輝いた作品「牧場へようこそ」(岐阜県 野添 一幸氏 撮影)です。草原の中、牛が列をなして歩く姿は、爽やかな印象を与えてくれます。



shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

▼暑かったり寒かったり目まぐるしいので、衣替えのタイミングが予測不能です。
 ▼会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。

編集後記



平成26年9月10日発行(毎月1回10日発行)

ZENRAKUREN
 MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報 9月号 No.588

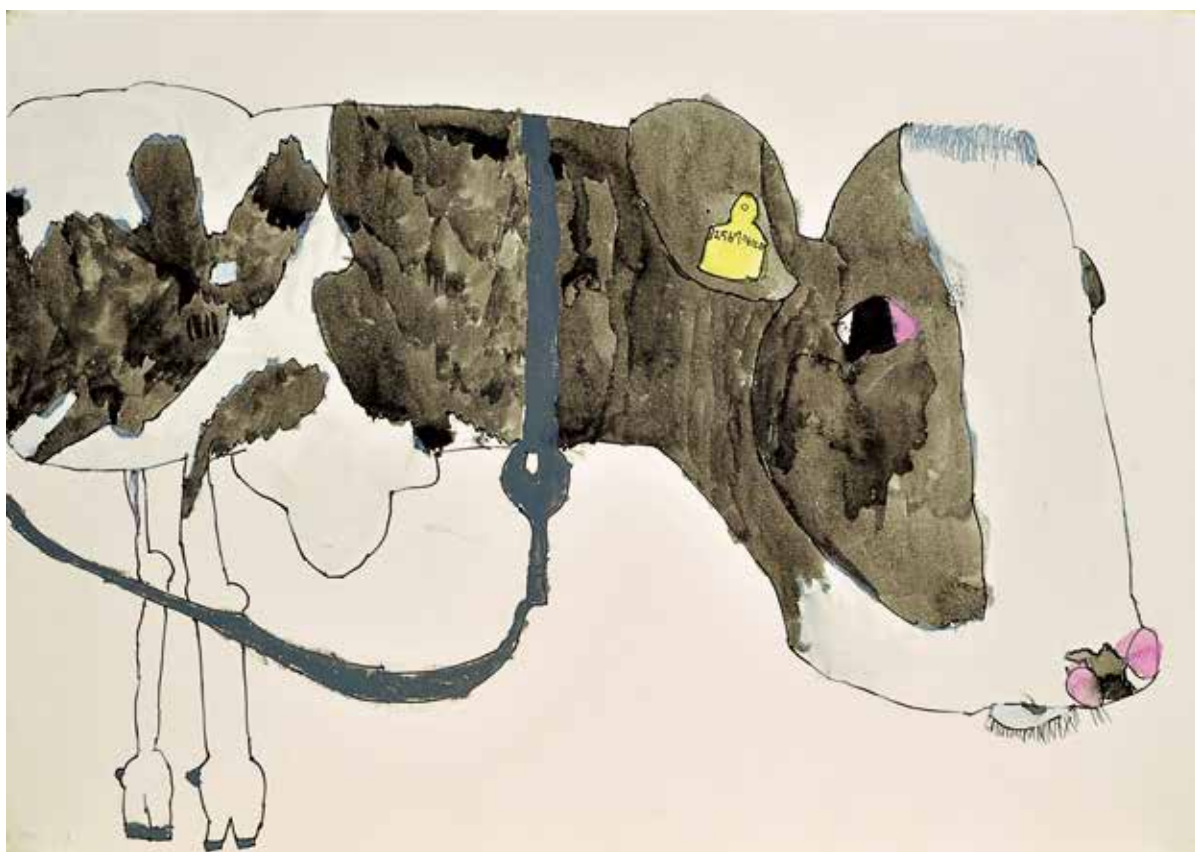
●編集・発行人 中島 裕志郎

●発行 全国酪農業協同組合連合会

〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号

TEL 03-5931-8003

http://www.zenrakuren.or.jp/



今月の



入賞作品介绍

見つめる牛

豊富小学校(中部)3年 小串 珠々



今月の入賞作品は、豊富小学校(中部)3年の小串珠々さんの作品です。
首を傾けてこちらを見つめる牛さんの姿が印象的な絵です。観察力の鋭さが伝わる、繊細な線、黒と白、余白によって構成された画面には心地よい緊張感がみなぎっています。首まわりのしわなど黒色をうまく使い分けて描けましたね。

※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第41回らくのうこどもギャラリー」で全国451点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議